

商業科って、なにを学ぶの？

ビジネスのスキルを磨いて、世界にはばたこう！

盛岡市立高等学校 商業科

1 商業は「文系」です

商業の代表的な科目は「簿記」です。多くの人は、「簿記＝お金の計算」というイメージだと思います。それはあながち間違っていないかもしれません。しかしそのことが、「お金の計算＝数学が得意でなければならない」という誤解につながってはいないでしょうか。

そもそも**商業は「文系」**の教科です。簿記に必要な計算は、そのほとんどが中学1年生で勉強する1次方程式程度の知識で十分解けますし、計算の正確さが何より重視されるので、どんなに簡単な計算でも**必ず電卓**を使います。



計算はあくまで手段であり、計算の結果導き出された数値から企業の経営状態などを読み取り、企業をより安定的に発展させるためにはどうしたらよいかを考える、**企業の経営者の視点を持つ**ことが「簿記」を学ぶ本当の意義なのです。

2 「簿記」ってなんだ？

このように会社の経営者にとって、簿記の知識は不可欠です。そして、社長の右腕となる多くの従業員は、入社してから簿記の知識を身に付けるよう求められます。**社会人が欲しい資格の No.1** が「簿記」であるとも言われ、大学卒業まで全く簿記と無縁の人でも、企業に就職してから勉強を始める人がとても多いのはそのためです。そんな「社会人必須の知識」を高校時代に身に付けることができるなんて、とてもお得だと思いませんか。

また日本では、高齢化の進展によって公的年金だけではなく、老後の生活に2000万円ほどのお金を準備しなければならないという話もあります。そこで、これからの人々の財産形成についても「貯蓄」から「投資」へと大きく変わりつつあります。みなさんが将来**個人投資家**として、「どの会社の株が値上がりするか」などの判断をするうえでも、簿記の知識はとても役立ちます。



3 「商業」ではなく「ビジネス」！

「商業」という言葉は、商品を仕入れて販売する「商品売買業」という狭いイメージを持たれがちです。しかし、「**ビジネス**」という言葉に置き換えてみただいぶイメージが変わるのではないのでしょうか。例えば自動車産業も自動車を作るだけではありません。いくら作っても買ってもらわなければ経営は成り立ちません。顧客がどのような自動車を欲しているか(**市場調査**)、生産に必要な材



料をいくらで調達し、利益を得るために完成した製品をいくらで販売するか(原価計算)、製品の存在や価値を知ってもらうためにどのように宣伝するか(広告・販売促進活動)、これらはすべて商業科で学ぶ内容です。

つまり商業科での学びは、世の中に存在するすべての企業で必要とされるものなのです。



4 検定合格を目指そう

商業に関する検定はたくさんあります。検定合格は自分の能力を示す「ものさし」のようなものであり、企業に対して求めている人材であることを客観的に証明できます。



また、検定合格をめざすことで、日ごろの学習目標がより明確になり、主体的・意欲的に学習に取り組むことができます。

そして何より素晴らしいことは、努力さえすれば**必ず合格できる**ことです。入学試験とは異なり定員はありませんので、合格に必要な能力を身に付けた人は全員合格できます。

○商業科で取得できる主な資格

- (1) 全国商業高等学校協会主催の検定試験(以下の5検定)…1級の取得を目指します
 - ・ビジネス計算実務検定…ビジネスに関する計算能力を判定(電卓を使います)
 - ・簿記実務検定…経理事務に必要な知識や技術、企業の経営管理能力を判定
 - ・ビジネス文書実務検定…ビジネスで用いられる各種文書を作成する上で必要な知識や技能を判定(Microsoft Wordなどを使います)
 - ・情報処理検定…表計算ソフト(Microsoft Excel)やデータベースソフトなどを利用し、ビジネスで情報を主体的・実践的に活用する能力を判定
 - ・商業経済検定…企業経営の基本や国内外の経済情勢を理解する能力を判定
- (2) 日本商工会議所主催簿記検定…2級の取得を目指します

5 積極的に外へでかけます!

商業科の魅力は、実践が伴うところです。机にかじりついてひたすら勉強するだけではなく、**コンピュータや電卓**等のツールをフルに用いてそれらの活用技術を磨いたり、企業と共同での**商品開発や販売実習**、市場の動向を把握するために街に出かけて**アンケート調査**を行ったり、調査・研究した成果を発表したりと、校外での実践的な活動がたくさんあり、楽しみながら社会で活躍できる人間力を高めることができます。

